

聖土曜日・復活の聖なる徹夜祭

I 創世記 1・1、26-31a

III 出エジプト 14・15-15・1a

VII エゼキエル 36・16-17a

使徒 ローマ 6・3-11

福 マタイ 28・1-10

いよいよ私たち復活の聖なる徹夜祭を迎えました。一年の典礼の頂点であり、私たちの信仰の原点であり、根本です。そのいくつかについて皆さんと思い起こし、かみしめていきたいと思えます。

聖土曜日の最も神秘的な典礼の一つが光の祭儀ではないでしょうか。

真っ暗闇の中に微かに暖かい火花が見えてきます、そこから、復活のろうそくに火がともされます。「輝かしく復活したキリストの光が、心のやみを照らしますように。」この言葉の通り私たちは闇から光へと導かれていきます。それに続く「復活の賛歌」は何と美しいことでしょう。

光の祭儀に続き、今日特別なみ言葉の典礼に入ります。なんと旧約から七つと新約から二つの聖書のみ言葉が読まれます。その中で最も重要で、省くことができない朗読が出エジプト記 14 章です。この復活の聖なる徹夜祭のルーツが書き記されているからです。復活のろうそくで暖かく照らされた御堂の中で聞かれるみ言葉はいつまでも忘れられないものです。

続いて、典礼は洗礼と堅信の儀に入ります。よく準備されてきた洗礼志願者の皆が緊張の面持ちで祭壇の前に呼び出されます。諸聖人の連願が歌われ、水の祝福が行われます。洗礼を受けた後、それぞれ白い衣とろうそくを受け取りますが、それは洗礼によって白く清くされ新しい人となったこと、そしてキリストの光をもたらしものとなったことを現しています。おのおのが自分の洗礼を思い出していたことでしょう。

そして按手を受け、額に塗油を受け、「知恵と理解、判断と勇気、神を知る恵み、神を愛し、敬う心」という聖霊の七つの賜物をうけます。これで信仰者として一人前となったしるしです。誇らしい気持ちです。

そして、徹夜祭の典礼は頂点に向かっていきます。

光の祭儀を始め、み言葉を聞き、洗礼の恵みを思い出し、最後にキリストの体を受け、復活の聖なる徹夜祭の典礼は終わります。

この典礼を通して、私たち一人一人は一年の信仰生活を振り返り、主の復活の祭典を通して、まだ新たな一年をこの恵みの中で慎みながら希望と勇気をもって歩んでいきたいものです。